***目と耳に障害を持つ***

***盲ろう者と***

***楽しくコミュニケーションを取るために***

***必要なこと***

**平成２６年３月１５日**

**於：和歌山ビッグ愛９階**

**主催：和歌山盲ろう者友の会**

**「通訳・介助員の心構えと留意点」**

**１．安全第一**

**盲ろう者が安全に安心して通訳・介助を受けられるような通訳・介助を行うようにしましょう**

**２．先ず、必ず発言者の名前を伝えてから発言内容を伝えるようにしましょう**

**発言者が誰なのか分からなければ盲ろう者は混乱してしまいます**

**３．盲ろう者のペースに合わせた通訳をするようにしましょう**

**いくら手話や指点字が上手でも盲ろう者に伝わなければ、それは通訳とは言えません**

**４．発言者の発言内容は基本的には「直接話法」で伝えますが、盲ろう者のコミュニケーション手段や理解度に合わせて通訳することが大切です**

**５．適宜状況説明を入れるようにして下さい**

**人の表情、その場の雰囲気、部屋の様子など**

**６．必要に応じて補足説明を入れて下さい**

**７．「盲ろう」ということでひとくくりにせず、盲ろう者の障害の状況に応じた**

**配慮をして下さい**

**（例）手話が見やすいように黒い服を着る**

**８．基本的には盲ろう者が自己決定、自己判断できるような関わり方をして下さ**

**い**

**９．雑談時の通訳を軽視しないようにして下さい**

**集団の中で盲ろう者が孤立しないように関わって下さい**

**10．明らかに盲ろう者が誤解していると判断した時は、その場で誤解を解くよ**

**うにして下さい**

**11．その日の通訳・介助内容をきちんと確認した上で行動するようにして下さい**

**「多分こうだろう」などと推測で行動してしまうとミスが多発します**

**12．進行速度の調整をするようにして下さい**

**進行速度が早過ぎて盲ろう者が話についていけない時は、「もう少しゆっくり話して下さい」と言って進行速度の調整をして下さい**

**盲ろう者自身が進行速度の調整をする場合は、盲ろう者にその場の状況を伝えて下さい**

**ただし、一般の講演会など進行速度の調整ができない時は、盲ろう者にそ　のことを伝え、要約するなど盲ろう者と通訳の仕方を相談するようにしましょう**

**また、発言者(相手)にどのくらいのペースで通訳しているか伝えるようにするため声を出しながら通訳すると進行速度の調整が比較的しやすくなります**

**13．盲ろう者のことを理解しようとする気持ちを持つことが大切です**

**14．盲ろう者にとって良き話し相手になって下さい**

**良き話し相手になれない通訳・介助員は良い通訳・介助もできません**

**15．盲ろう者と社会との架け橋になって下さい**

**コミュニケーションと移動の保障だけではなく、盲ろう者と社会との架け**

**橋になることも大切です**

**16．盲ろう者の通訳・介助と、聴覚障害者の手話通訳及び要約筆記通訳、並びに**

**視覚障害者向けの同行援護とは異なります**

**17．焦らず、落ち着いて通訳・介助を行う**

**焦るとミスが増える**

**18．盲ろう者への問いかけの時は通訳・介助員が代わりに答えたりしないように**

**して下さい**

**19．絶対に正しい通訳・介助は存在しません**

**盲ろう者のニーズに応えた通訳・介助を行うことが大切です**

**20．主体性を忘れずに**

**盲ろう者が自己決定できるような通訳をしましょう**

**通訳・介助を受けることに慣れていない、あるいは盲ろうになってからの社会経験が浅い盲ろう者に対しては自己決定ができるようになるためのフォローが必要です**

**21．信頼関係を築くことが大切**

**盲ろう者と沢山コミュニケーションを取りましょう**

**資料提供：藤鹿 一之 氏**